

# ラオスの こども通信

52  
2011年7月発行

発行：(認定)特定非営利活動法人 ラオスのこども

- 都会、地方、子ども時代 ▶ p1
- はじめる・つながる・つくりだす [2011.4-6]  
ラオス発 ▶ p2 日本発 ▶ p3
- みんなでボランティア ▶ p4
- 「勉強会」報告 ▶ p4
- メコンのほとり「食」 ▶ p4



## 都会、地方、子ども時代

AIC(ラオスのこども)でまくが働き始めて約1年が経ちました。事務所の図書館では都会の子どもたちに接し、地方の学校を訪れると、それぞれの土地の暮らし、子どもたちに出会います。地方の子どもたちの日常は、ほくらのころと変わりません。



子どもたちとカムフー(ポリカムサイ県/バッカディン郡)

### ムアン！ 魚獲りやタニシ採り

ほくはヴィエンチャン県フアン郡出身で、小学校に入学したのは1994年です。勉強は学校です。下校するとかくれんぼや鬼ごっこ、そして父や母の手伝い、筍や山菜採り、魚やタニシ獲り。土・日も畑や焼畑、田んぼに行きました。

魚獲りやタニシ採りはムアン(楽しい)！ 誰に頼まれるでもなく行って、採れると親も喜んで、ほめてくれるのでうれしかったです。

友だちと朝、バツヤやイナゴ(炒めたり、もち米などにつけて食べるタレにする)や小さい蛙(食用)を採りに行き、昼ごろまた待ち合わせて池に遊びに行きました。イナゴが採れるのは乾季。雨季になれば、水牛で働いた後の田んぼは魚を獲る絶好の場所でした(最近では農業を使うようになってたくさんは獲れません)。

苗代に重たい木の棒のようなもので穴を開けるのはお父さんや大人の男の仕事。そこに子どもが初を落としていきます。兄や妹と競争したり、穴を作るお父さんと競争しました。収穫した米はほとんど自家用でしたが、ほくが大学に行くようになり、一部を売って学費にしてくれました。大学は父母に行くように言われ、自分も進学を希望しました。親としては年をとってから経済的に頼れるように、農業ではない仕事に就いてほしかったでしょう。



チャンバサック県チャンバサック郡

### さまざまな活動にふれる機会

今の都会の子どもたちは、ほくらの子ども時代や今の地方の子どもとは、環境がずいぶん違ってきています。勉強では放課後に補習授業(学校で行う塾のようなもの)も有料でラオス舞踊、お絵かき、演劇やいろいろな活動や催しもあります。図書館で本を読んだり、土・日には子どもセンターでラオス舞踊、お絵かき、演劇やいろいろな活動や催しもあります。こうした活動や学びを通して、子どもたちはたくさんの知識を吸収し、様々な能力を伸ばし、成長を促します。

ほくは、子ども時代を地方で過ごした者として、子どもたちがこうした機会がたくさんあることは、とてもよいことだと思います。子ども時代にどんな機会が得られるか。それがその先の経験の積み方にもさまざまな影響をもたらすことでしょう。

(カムフー・ナントラー/ラオス事務所スタッフ)



ルアンパバーン県ルアンパバーン郡

## ラオス 発

### ラオス語を楽しく教える。 先生の先生、育成に取り組んだ3年間

2008年に財団法人日本国際協力財団の支援を得て開始した「教員養成校におけるラオス語指導者育成事業」が3月末に終了しました。ラオスの小学校では、先生が教科書の内容を黒板に写し、生徒が板書を写すのが日常の授業風景です。この事業は、小学生が読解力を身につけ、思考力、考察力、想像力を育てるように、楽しく読み・学べる参加型授業の技術を教員養成校の学生が修得することで、ラオス語教育の質改善をめざしたものです。全国8か所の教員養成校のラオス語教員を対象とし、ラオス語の授業で絵本や本を副読本として取り入れる多様なテクニックを指導しました(テクニックの詳細は本通信47号を参照)。

この事業を通し、教員養成校の教員とともに「教本:ラオス語を楽しく教える方法~小学校教員課程向け~」を制作しました。現場の教員養成校の教員・学生が授業で活用しやすいように、理論は最小限に留め、実践例を中心に多様な手法を噛み砕いた言葉で説明しています。教本の一部は、この事業の1年目に実施したラオス語指導法研修に参加した教員が、教員養成校での実践を踏まえ、2年目の「マニュアル作成セミナー」を経て、テクニックの活用方法を執筆しています。

また本事業では、この手法を教員養成校の学生が学べるよう、指導者育成に取り組まれました。しかし、公式カリキュラムでないこともあり、ラオス語教員に新しい手法の必要性が十分に受け入れられず、積極的に導入されませんでした。指導者の育成がわらひ通りに進まなかったため、3年目は講師陣が教員養成校を訪問し、直接学生を対象に模擬授業を実施しました。教員という職業に期待と不安を抱く若い学生は参加型手法に関心をもち、意欲的でした。今後、教本の活用状況を調査すると同時に、教員養成校や教育省に、この手法の導入を働きかけていかなければなりません。

受講者からは「子ども達が楽しんでいるので、教える側も楽しく疲れたを忘れた」といった声も聞かれました。この気持ちを一人でも多くの先生に実感してもらうにはどうしたらよいか、先生の先生、将来の先生への新たな働きかけ方を検討しています。



祭りで踊る顔を踏んだ詩を楽しむ教員養成校の学生

完成した教本  
「ラオス語を楽しく教える方法」



### こども図書館、子どもの日イベント開催

6月1日は社会主義の国々では「子どもの日」。ラオス各地で子ども向けイベントが行われます。それに先立つ土曜日、5月28日に当会のこども図書館は子どもの日イベントを開催しました。午前中、子どもたちは歌、工作、ぬり絵、劇の練習など好きなアクティビティコーナーで遊び、午後は歌、リコーダー、劇などの発表とラムフォン(ラオス版バダマンズ)コンテストを行いました。いつも図書館の貸出作業を手伝っている中学生グループは、3週間前から初めてのリコーダーを練習し、「メリーさんの羊」や「ジングルベル」を披露しました。

この日、100人を超える図書館の常連の子どもたち、父母、大学生ボランティアが集まり、客席には日本大使の横田順子さんの姿もあって、いっしょに発表を楽しみました。ラオスの子どもたちは観客が多いほど張り切る本番に強い性質らしく、みんな実にイキイキとしていました。



寸劇(大きなかぶ)の発表を楽しむ観客と子ども

### 紙芝居と絵本を出版

2011年3月、紙芝居「青虫くん、葉っぱを探して」を出版しました。この紙芝居は2009年に当会がヴィエンチャンで開催した紙芝居制作ワークショップで、当時大学生だったソムベットくんが作り、「箕面手づくり紙芝居コンクール」に応募して特別賞大阪国際児童文学館賞を受賞した作品です。

6月にはカム族民話絵本「わらびをとりに」を出版しました。文はカム族の作家スックサワンさん、絵はその姪のカンケオさんによるもので、きれいな色づかいが目を引き、早くも人気の絵本です。



紙芝居  
「青虫くん、葉っぱを探して」を演じる  
スタッフのチャンシー

### 日本の被災地支援の寄付、メッセージが集まる

ラオスは日本から援助を受ける国、でしたが、東日本大震災発生以降は日本を支援しようという熱が高まっています。在ラオス日本大使館には5千万円以上の義捐金が集まり、個人や団体が被災地支援のTシャツを販売するなど各地で活動が行われました。

会のこども図書館では震災発生後間もなく、「日本の被災者にメッセージを」とスタッフが掲示板を設置しました。「スーサー ニューブ(がんばって、日本のみなさん)」「日本に居られなかったら、ラオスに来て住んでください」「日本の皆さんが洪水(ラオスに津波はない)の被害から守られますように」など、純々子どもたちからのメッセージが集まりました。

# 日本発



4月23日

## 29回目のサバイディー・ピーマイ・パーティー

ラオスでは4月に新年(ピーマイ)を迎えます。会では日本でサバイディー・ピーマイ・パーティーを開催し、2011年は29回目。東京・池上会館で参加者46人、ボランティアスタッフ29人、留学生12人など約90人がラオスのお正月を祝いました。今年は、私たちの活動の原点である絵本を、みんなで楽しみ、本の力を語り合い、東日本大震災被災地に絵本を届ける出発の日となりました。

### 絵本を楽しもう

2008年に当会が出版したモン族の民話「3つの力」をラオス語と日本語で読み聞かせ。

力持ちの主人公が仕事を探しに出かけた道中で出会った仲間2人とたどり着いたのは怪物に襲われた村。知恵を出し合って怪物を退治します。

もう1冊。保育園で大人気の「もっちゃう もっちゃう もっちゃう」(作:土屋富士夫 徳間書店)。現場の先生による読み聞かせは臨場感あふれ、絵本の面白さに笑い声が響きわたりました。



参加者同士で「絵本の思い出」などを語りあいました。



今年もラオス国営航空協賛による航空券をめぐってOXクイズに挑戦。

### 集まった本、岩手県釜石市へ

ピーマイ参加者から集まった220冊と事務所へ届いた分をあわせて712冊を、5月、岩手県釜石市在住の当会会員の協力を得て郵送しました。「さんあいセンター(旧鶴住居保育園)」に届けられ、近隣の栗林小学校でも活用されるとのことです。



6月6日

### ラオスから届いた寄付&メッセージ



ラオスから東日本大震災の被災地支援として45,000円相当の寄付金と約200通のメッセージが届きました。寄付金は、当会が被災地に絵本を送る活動に、そして被災地で行政の手の届かない隙間への支援を行う(特活)国際ボランティアセンター山形に6月6日に送りました。

### 5月25日 リコーテクノシステムズ株式会社 ランチイベント「食べるボランティア」

「食べる」ことで寄付ができるチャリティイベントとして、本社リフレック・エリアでランチイベントを開催しました。朝から社員のみなさんと一緒に準備をしてココナッツゼリー(ヴン)とラオスコーヒーを販売。ヴンは100個、ラオスコーヒーは70杯販売しました。

初めてのヴンに、「ちょうどいい甘さで、男性でも食べやすい」、「見た目もキレイで美味しい」など、うれしい感想。味覚を通してラオスや私たちの活動を知っていただくよい機会となりました。ヴン、コーヒーの準備に、食べるボランティアに参加されたみなさん、ありがとうございます。



6月6日

### 五嶋みどりさん、 ラオスでの活動の報告コンサート開催

2010年12月、五嶋みどりさんと若手演奏家3人がラオスを訪問し演奏ツアーを行い、当会は学校や子どもセンター、7か所での訪問演奏会に協力しました(詳細は本通信51号を参照)。その報告コンサートが東京・王子ホールで開催されました。演奏家のみなさんから訪問ツアーについて、「子どもたちにとって、自分自身や作曲家、曲の背景など、いろいろ考えるきっかけになればと願っています。演奏する自分にとっても、音楽の力を考え直すよい機会となりました」などの感想が語られました。

当会がラオスで支援する「子どもセンター」は音楽に親しむことなどを通して、子どもの感性を育む活動をめざします。

### 出版プロジェクト

#### ● 沖電気工業株式会社「OKI愛の100円募金」のご支援

紙芝居『青虫くん、葉っぱを探して』

作・絵:ソネット・ケヴオンサイ

部数:3000冊

お腹をすかせた青虫くんは、おいしい葉っぱを探してよーいしょ、よいしょ。青虫くんはおいしい葉っぱを見つけることができたのでしょうか。(p2の読み聞かせ写真をご覧ください)

#### ● キヤノン株式会社のご支援

絵本『わらびをとり』

作:スックサワン・シーマーナ 絵:カンケオ・シーマーナ

部数:4000冊

孤児の男の子は、ある日、寝床にしていた大きな岩に、「わらびを食べに一緒に行くかい?」と誘われ、わらびの谷へ行くことに。さて一体なにが起こるのでしょうか?



## 掘れば掘るだけ興味がわくラオス

高倉 浩樹さん

友人から「ラオス」という全く知らない国の話を聞いたときに、すでにその謎の国はかなり気になる存在でした。そんな国の正月のお祭り、ピーマーパーティーの話を持ってきたのもその友人で、ボランティアの方が色々聞けるだろうと、お手伝いをさせてもらったのがきっかけでした。

イベントでは手伝い側の自分ですが、隙を見ては物販の布や小物やラオス語の絵本、写真なんかを眺め回します。この織物部屋に欲しいなあ、どうやったらこんな模様になるのかな。絵本は絵から察するにこんな話かな。小学校のこどもの写真、綺麗な景色だし子どもは楽しそうだし、行きたいなあ、と。

周りにはラオスに長年関わっている方がたくさんいるので、疑問には答えられますし、面白話や現地情報など僕らのソス熱を加速させる話が出てきます。自分にとって知るための場が会で活動になっていると思います。

ラオスは今では、掘れば掘るだけ興味の対象が出てくる魅惑の国になりました。ボランティアという場を通じて、まだまだ掘り出したいと思います。



## 表紙の写真

子ども達が真っ赤な花をつけた木の下に集まり、長い木の棒で木を搦ってました。「甘いだよ」と言っても、みんなむしゃむしゃ。ほとんど味はしませんでした。が、わさわさとして搦っておやつが採れるのですから楽しいに違いありません。農村の子どもたちのおやつ、真っ赤な花をつけるファーンデー(火焙餅(かんじんじゅ))は大きな木陰をつくるので重宝がられ学校や病院、街路沿い、至る所で見かけます。ラオス正月が終わった雨季の始まりに花を咲かす季節の変わり目を告げるファーンデーの花が咲くと、もうすぐ学年末試験で長期休みに入るなあ、とダララ現地代表は花は嬉しかった気持ちになるそうです。(撮影:南部チャンパット県ターン郡)

特定非営利活動法人 ラオスのこどもの目的は、子どもたちが自らの力を伸ばし、人生を主体的に選択でき、公正で平和な地球社会づくりに貢献することです。教育が十分に普及していない地域のひとつラオスで活動し、ラオスと日本をはじめ子ども、人々の参加を通じて、だれもが成長の機会を得ることをめざします。

## ラオスのこども通信 52号

2011年7月発行 編集人:森 透  
発行:Action with Lao Children / Deknolao  
(認定) 特定非営利活動法人 ラオスのこども  
〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12 ミキハイツ303  
TEL/FAX 03-3755-1603  
e-mail: deknolao@yahoo.co.jp  
http://deknolao.org  
都営地下鉄浅草線 西馬込 南口下車 徒歩7分  
郵便番号 00140-6-462494

## 「勉強会」報告

「山田さんが2時間で解き明かすラオスの謎?!」(6月11日・JICA地球ひろば)  
講演者:山田紀彦さん

(日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センター東南アジア研究グループ)

農業中心のラオスで高い経済成長率。それはなぜ? 株式市場が誕生し、株を買うと儲かりそう? 2011年に国会議員選挙が行われ、99%を超える高い投票率になった。それはなぜ? 国会に国民がもの申す電話が設置された。そこにどんな電話がかかってくる? そもそも、ラオスの政治体制はどんなしくみ? など次々とラオスの不思議、謎に迫りました。さらに、経済発展の中で基礎教育と読書の大切さに話が進みました。



【今回の勉強会】  
8月6日(土)。詳しくは会のホームページなどでお知らせします。お楽しみに。

## これからの予定 2011年8月～12月

### <事務所オープン日>

初めて会に関わる方、活動に参加してみたいという方に活動の紹介をし、発案作業やパソコン入力などを手伝った日です。9/3、12/3

### <勉強会>

ラオスの謎にせまったり、ラオス料理にチャレンジしたり、会の活動を掘り下げて学ぶという企画です。8/6、10/8、12/10

### <活動ミーティング>

現地プロジェクトの報告、国内イベントの打ち合わせ、会の運営についての意見交換などを行います。11/12

(2011年度通常総会)  
9/17(土) 14:00～17:00 ライフコミュニティ西馬込(都営浅草線「西馬込」駅)で開催します。

(ラオスの織物展)  
11月下旬開催予定。詳細は別紙をご覧ください。

(スタディツアー2011)  
12月下旬にて実施予定。詳細は別紙をご覧ください。

\*各スケジュールは変更になる場合があります。内容や会場とあわせ、ホームページまたは事務局におたずねください。みなさんの参加お待ちしております!

# メコンのほitori食

## ラオスのこどもオリジナルレシピ その②

### 夏にさっぱり! チェオ・マックレン

ラオスの食卓に欠かせないのがチェオ・マックレン。トマト(マックレン)のディップです。野菜やもち米につけて食べると絶品です。さまざまなチェオがあり、今回はさっぱりとした味わいのレシピをご紹介します。日本で入手しやすい材料で作れるようアレンジしているので、ぜひご家庭でお試ください。

離状に入れたり、ピザソースのようにパンにぬってもおいしいですよ。



### 【材料】4人分

- ・にんにく……………1～3片
  - ・プチトマト……………2パック
  - ・カー(タイ生姜)……………親指大
  - ・または日本の生姜……………親指大
  - ・玉子……………2個
  - ・豚のき内……………100g\*
  - ・和風だしの素……………小さじ2
  - ・塩……………小さじ1強
  - ・砂糖……………大さじ1強
  - ・粉唐辛子(一味)……………小さじ2～
  - ・サラダ油……………適量
- \*にんにくと粉唐辛子は好みで。